

筑前町 事業者ヒアリング結果 (数値目標の中間報告)

1. 事業者ヒアリング実施概要

- 筑前町内を運行する、計6事業者に下表の日程でヒアリングを実施
- 計画の中期を迎える今年度において、公共交通の現状、将来課題、行政への要望等、計画策定後からの変化を把握

ヒアリング実施日時と参加者

No	日時	事業者	参加者	主な設問
1	R7/8/4(月) 13:00～	株式会社甘木観光バス (甘木観光労働組合)	● 甘木観光バス ● 甘木観光労働組合 ● 筑前町 ● 日本工営	● 現状の運行状況について(利用者数など) ● 将来的な課題について(運転者の状況、車両、課題など) ● 現状の取組動向について(情報提供・DXの取り組み等) ● 行政への要望について ● かがし祭での連携企画について
2	R7/8/5(火) 10:00～	西鉄バス二日市株式会社	● 西鉄バス二日市 ● 西日本鉄道 ● 筑前町 ● 日本工営	
3	R7/8/7(木) 10:00～	甘木鉄道株式会社	● 甘木鉄道 ● 筑前町 ● 日本工営	
4	R7/8/7(木) 13:00～	福岡県筑後地区タクシー協会	● 筑後地区タクシー協会 ● 筑前町 ● 日本工営	● タクシー協会の現状について(事業者数の変化など) ● 問題点・課題・今後の事業展開等について ● タクシー事業における要員の充足状況・見通しについて ● 行政への要望・意見について
5	R7/8/8(金) 15:00～	有限会社宮原タクシー	● 宮原タクシー ● 筑前町 ● 日本工営	● 現状の運行状況について(利用者数など) ● 将来的な課題について(運転者の状況、車両、課題など) ● 現状の取組動向について(情報提供・DXの取り組み等) ● 行政への要望について ● かがし祭での連携企画について
6	R7/8/19(火) 15:00～	矢野タクシー株式会社	● 矢野タクシー ● 筑前町 ● 日本工営	

2. ヒアリング結果の概要

- 公共交通利用者はコロナ禍前の水準まで回復傾向であり、増加するインバウンド需要への対応などを実施中
- 多くの交通事業者が乗務員不足・高齢化を問題としており、公共交通サービスの持続性確保が継続的な課題

ヒアリング結果

N o	設問内容 (大項目)	設問内容 (小項目)	【事業者】 バス・鉄道	【事業者】 タクシー
1	現状の運行状況	利用者の状況	● 利用者数はコロナ禍前の水準まで回復しつつある ● 通勤・通学利用が多い ● インバウンド観光客の利用が増加 →多言語案内等の対応を実施	● 移動の需要は増えている印象 ● 小学生の送迎、高齢者の通院等幅広い年代で利用 ● コロナ禍以降夜間の利用が減少
2	現在・将来的な課題	乗務員の充足状況・将来見通し	● (バス事業者)乗務員の希望者は少なくなってきており、この状況が続くと現行の路線ネットワークの維持は困難 ● 運転手担い手確保に向け、待遇や育成面の改善を実施している	● 乗務員不足により、稼働台数が減少(移動需要に対応できていない) ● 継続的に採用活動を行うと共に、主婦層等女性の運転手募集も強化
		車両・燃料・その他	● 車両費(安全装置等も含む)、燃料費の大幅な高騰 ● 免許取得費用の高騰 ● 運休時の情報発信が課題	● 車両費、燃料費の大幅な高騰 ● 免許取得費用の高騰
3	現状の取組動向	IT・DX等への取り組み状況	● 決済方法のキャッシュレス化	● 配車システム(電腦交通)を導入し効率的な配車を実施
4	行政への要望	公共交通を維持していくための要望等	● 慢性的な乗務員不足は恒久的な課題であり、大型路線バス輸送と別手段の交通で担うべき路線のすみ分けが必要 ● 免許取得に係る支援事業の検討	● オンデマンドバスの利便性の線引きを行い、タクシー事業との差別化を図ってほしい ● 免許取得に係る支援事業の検討 ● 上西山線の廃止に伴い、オンデマンドバスの需要が増え(山間部等)、確実な配車が可能か危惧
5	かがし祭での連携企画	連携可能な取り組み	● 車両展示、チラシ配布(利用促進、乗務員募集)等 ※各事業者と個別調整	

3. 筑前町地域公共交通計画の数値目標(中間報告)

- 筑前町全体での公共交通年間利用者数は令和元年度の水準まで徐々に回復している状況
- 本年度以降も、公共交通の利用促進に向けた施策を継続的に実施していく

数値目標(1) メリハリと特色を持たせた公共交通網の再構築

更新値

評価指標	設定根拠	基準値 (R4)	R5	R6	目標値 (R10)
公共交通※の年間利用者数 (令和元年度比)	鉄道・バス・地域内交通の利用者数について、人口減少下に係るものの、コロナ禍前の水準を目指すことで公共交通へのニーズを計る。	約85%	91%	94%	100%
オンデマンドバスの収支率	新たな地域内交通として、効率化を図りながら収支率の向上を目指す。	-	-	5%	15%

※筑前町全体での公共交通(鉄道、路線バス、地域巡回バス)の利用者における令和元年度比

数値目標(2) 町民・地域・民間とで公共交通を考える場づくり

評価指標	設定根拠	基準値 (R4)	R5	R6	目標値 (R10)
住民一人当たりの 公的資金投入額	利用者1人あたりの公共交通の財政負担額を踏まえて、収支状況を計り、交通サービスの最適化状況を判断する。	1,450 (円/年)	-	1,358 (円/年)	1,400 (円/年)

数値目標(3) 移動サービスの持続性向上

評価指標	設定根拠	基準値 (R4)	R5	R6	目標値 (R10)
オンデマンドバス利用者数 (地域巡回バスからの転換; 令和元年度比)	地域巡回バスの代替としての機能、運行効率化での利用者数の変化を踏まえて、オンデマンドバスに関するニーズを計る。	-	-	70%	130%